



GS 連続シンポジウム 2008

まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に取り戻す

第3回「掘り起こせ、ひいじいちゃん達の石積護岸 - 油津・堀川運河」
2月23日(土) 15:00-18:20 / 東京大学 工学部 11号館講堂

入場料：一般 /1000円 学生 / 無料

<http://www.groundscape.jp/>

主催/GS デザイン会議 後援 / 土木学会 景観・デザイン委員会

サポート / (株)アトリエ74 建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有)eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター(株)コトブキ、(株)GK 設計、清水建設(株)、(株)住輕日軽エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル日本工営(株)、日本電気硝子(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、ヨシモトボール(株)、(株)ワークヴィジョンズ

水辺を市民の手に取り戻す

GS デザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を超えた専門家間のデザイン体制（コラボレーション）の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。そして現在、全国各地でその成果が着実にたちあらわれつつあります。とくに、都市やまちのなかで重要な位置を占める水辺に注目し、水辺の整備から『まち』への面的な波及効果を持たせる手法は、津和野川（島根県津和野市）や油津・堀川運河（宮崎県日南市）などで大きな成果を挙げており、まちづくりの定石のひとつになると考えられます。

しかし、空間整備を進めるにあたっては、必ずといってよいほど、さまざまな制度や限られた予算、旧態然としたしがらみなどの制約が存在

しています。これまでに実現した良い事例は、いわばそれらと悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多くあるはずです。こうした知恵の共有化はまちづくりに携わる人間にとって重要な課題であり、GS デザイン会議は、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民への情報を発信するべく連続シンポジウムを開催します。シンポジウムでは、現実の壁を乗り越えたデザイン事例の過程に焦点を当てます。まちづくりの現場の問題に対する本音の話を引き出し、どのような人がどのような役割を果たし、最終的にどのような空間に結実したのかを手がかりにし、今後のデザイン戦略を議論します。第三回は日南市の堀川運河の試みから、まちづくりと水辺のあり方を問います。

第3回

「掘り起こせ、ひいじいちゃん達の石積護岸 - 油津・堀川運河」



写真1



写真2



写真3

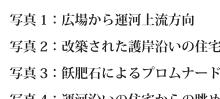


写真4

宮崎県日南市油津に位置する堀川運河は、1680 年代に飫肥藩によって開削された、全長およそ 1km の運河である。広渡川河口と油津港を内陸側で結び、藩の特産品であった飫肥杉を効率的に港へ運搬することが目的であった。当初は素掘りの運河であったが、明治から昭和初期にかけ運河沿いの土地所有者の請願工事によって石積護岸へと造りかえられており、往時は非常に賑わいのある場所であった。

シンポジウムで取り上げるプロジェクトは、こうした堀川運河の歴史性を活かしながら、市民が日常的に使用できる水辺を創出することを目的として始められたものである。具体的には、石積護岸の表面に張られていたコンクリートを剥がし、石積みを一度解体した後に、往時のかたちに修復・復原している。さらに、飫肥石を用いたプロムナードを石積護岸の前面に設け、飫肥杉を用いた屋根つきの木橋（夢見橋）を運河に架けるなど、地場材を積極的に活用しながら、まちと水辺をつなぎ合わせる空間構成をとっている。加えて、飫肥杉によるベンチや、鉄の無垢材を用い

た転落防止柵など、細部のデザインにも工夫が凝らされており、非常に魅力のある水辺空間が生み出されている。

シンポジウムでは、こうした整備を可能にしてきた背景として、以下の二つの点に注目していただきたい。ひとつは、県と市の一体的な計画運営である。運河の整備自体は宮崎県の港湾事業であるが、日南市も同時に市街地整備に取り組んでおり、縦割りを越えた共同体制が組まれてきた。もうひとつは、地場材の積極的な活用に向けた関係者によるワーキングの存在である。例えば夢見橋は、通常の土木構造物では考えにくいことだが、無垢の地場材（飫肥杉）と釘などを使わない伝統的な工法を用いて地元の職人が造りあげたものである。このような離れ業が可能となった背景には、事業主体や設計者、地元の森林組合や職人らが、かなり早い段階から「油津木材 WG」を組織して議論を積み重ねてきた経緯がある。当日は、関係者を多数交えて、今後の展開も見据えながら、白熱した議論を展開していく。

プログラム

司会進行 中井 祐 (GS 幹事長 / 東京大学大学院)

15：00 - 15：15 開会挨拶 篠原 修 (GS 代表 / 政策研究大学院大学)

15：15 - 15：45 基調講演 小野寺 康 (GS / 小野寺康都市設計事務所)

15：45 - 16：15 基調講演 岡本 武憲 (GS / 日南市教育委員会)

16：30 - 18：00 パネルディスカッション+会場質問

進行役：篠原 修 (前出)

パネリスト：岡本 武憲 (前出)

：井上 康志 (GS / 宮崎県)

：熊田原 正一 (熊田原工務店)

：小野寺 康 (前出)

18：00 - 18：15 閉会挨拶 内藤 廣 (GS 代表 / 東京大学大学院)

18：15 - 18：20 次回シンポジウム告知

18：30 - 20：00 懇親会

登壇者略歴

岡本 武憲

日南市教育委員会生涯学習課 課長補佐

1957 年生まれ。大谷大学文学部史学科卒業。滋賀県教育委員会文化財保護

課を経て、1989 年から日南市教育委員会社会教育課、現在に至る。飫肥重

要伝統的建造物群保存地区担当として、

飫肥の町並み、油津の町並みと堀川運

河等、日南市の歴史的資源を活かした

まちづくりや調査に関わる。日本考古

学協会会員・日本イコモス国内委員会

会員・九州伝建地区等連絡会議代表。

井上 康志

宮崎県道路保全課 課長補佐

1953 年生まれ。日本大学理工学部土木工学科卒業。1981 年宮崎県庁に入

所し、現在に至る。技術士（建設部門、

総合技術監理部門）。日向市の住民を交

えたまちづくりにかかわったを契機

に、NPO にも参加する傍ら、地域に入

り込んで活動することをライフワーク

としている。これまで関わった主な事

業に、日向地区連続立体交差事業、老

松通線及び松橋通線景観形成事業など。

熊田原 正一

株式会社熊田原工務店 代表取締役

1942 年生まれ。宮崎県立日南職業訓

練校建築科卒。山澄建設株式会社を経て、1981 年株式会社熊田原工務店を

設立し、現在に至る。2004 年日南市

まちづくり市民協議会設立時に『景観

街並み委員会』委員長を務める。地場

材である飫肥杉を用いて、数々の木造

建築物を手掛けた。巧みな技術とアイ

ディアを活かし、油津・堀川運河に架

かる夢見橋を施工。

篠原 修

政策研究大学院大学 教授

1945 年生まれ。1971 年東京大学工学

系大学院修士課程修了。アーバンイン

ダストリー、東京大学農学部林学科助

手、建設省土木研究所、東京大学農学

部林学科助教授、東京大学工学部土木

工学科助教授、同大学教授を経て、

2006 年より現職。設計指導による、勝山

橋（福井県）、油津堀川運河（宮崎県）、

桑名佐吉入江（三重県）、津和野川（島

根県）、苦田ダム（岡山県）など多数。

小野寺 康

小野寺康都市設計事務所 代表

1962 年生まれ。東京工業大学大学院

社会工学専攻修了。アブル総合計画事

務所を経て、1993 年小野寺康都市設

計事務所を設立、現在に至る。一級建

築士、技術士（建設部門）。設計作品に、

浦安境川（土木学会デザイン賞優秀賞）、

桑名佐吉入江（土木学会デザイン賞優秀賞）、越前勝山まちづくり、日向市駅

東口広場、道後温泉周辺広場など多数。

東京工業大学、早稲田大学非常勤講師。

参加申込方法 / WEB サイト <http://www.groundscape.jp/sympo/080223/> の応募フォームからお申込みいただくか、会員（個人・サポート・ユース）／非会員・氏名（ふりがな）・所属（会社名または学校名）・連絡先（メールアドレスまたは電話番号）・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにて GS デザイン会議事務局までお送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先 / GS デザイン会議事務局

電話 : 03-5805-5578 / FAX: 03-5805-5579

Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: info@groundscape.jp

会場案内図 /

